

日本気象学会 2009年度秋季大会

会期：2009年11月25日（水）～27日（金）

会場：アクロス福岡（福岡市中央区天神1丁目1番1号， <http://www.acros.or.jp/>）

大会実行委員会担当機関：福岡管区气象台，九州大学，福岡大学

大会委員長：西出則武（福岡管区气象台）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局(アクロス福岡会議室606) TEL・FAX：092-737-1075

会場案内図



- 福岡空港から天神まで地下鉄空港線で11分
- JR博多駅から天神まで地下鉄空港線で5分
- 西鉄福岡天神駅から徒歩10分
- 地下鉄空港線天神駅東口から徒歩3分
- 地下鉄七隈線天神南駅5番出口から徒歩3分
- バス停から徒歩
 - 市役所北口から0分
 - 天神4丁目から3分
 - 天神郵便局前から5分

※地下鉄空港線天神駅16番出口から、
アクロス福岡地下2階へ直接入館できます。
※地下に有料駐車場(約100台)があります。
利用時間/7:00～22:30 入口は市役所側です



財団法人 **アクロス福岡**
〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1
TEL 092-725-9113
<http://www.acros.or.jp>

大会行事予定

A会場 : 国際会議場 (4階)
 B会場 : 大会議室 (7階)
 C会場 : 円形ホール (1階)
 D会場 : 会議室607 (6階)
 ポスター会場 : 交流ギャラリー (2階)

シンポジウム・各賞授与式会場 : 国際会議場 (4階)
 受付 : 国際会議場横ロビー (4階)
 大会事務局 : 会議室606 (6階)
 懇親会 : アークホテル博多ロイヤル
 (福岡市中央区天神3丁目13-20)

() は講演数, - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
11月 25日 (水)	09:30~ 12:15	気象教育 (2, A101~A102) -富川喜弘- スペシャル・セッション 「国際極年 (IPY) 2007- 2008の成果と将来展 望」I (9, A103~A111) -富川喜弘- -橋田 元-	スペシャル・セッション 「温室効果ガス観測技術 衛星GOSAT 「いぶき」 の利用研究」 (9, B101~B109) -今須良一- -横田達也-	大気力学 (12, C101~C112) -伊賀啓太-	降水システム I (6, D101~D106) -佐藤晋介- 相互作用 (8, D107~D114) -吉田 聡-
	13:15~ 17:00	スペシャル・セッション 「国際極年 (IPY) 2007- 2008の成果と将来展 望」II (14, A151~A164) -猪上 淳- -中島英彰-	気候システム I (20, B151~B170) -稲津 将- -筒井純一-	台風 (19, C151~C169) -別所康太郎- -吉岡真由美-	気象予報 (18, D151~D168) -澤田 謙- -前島康光-
	17:00~ 18:00	ポスター・セッション (94, P101~P194)			
11月 26日 (木)	09:15~ 12:00	中層大気 (13, A201~A213) -宮崎和幸-	気候システム II (16, B201~B216) -河本和明- -上口賢治-	物質循環・放射 (16, C201~C216) -鶴田治雄-	雲物理 (16, D201~D216) -大竹秀明-
	13:00~ 13:30	山本正野論文賞・堀内賞・奨励賞授与			
	13:30~ 15:10	山本正野論文賞・堀内賞記念講演			
	15:30~ 17:45	シンポジウム「東アジアの大気環境」司会:竹村俊彦 基調講演:秋元 肇・三上正男・中島映至・市瀬孝道			
	18:30~ 20:30	懇親会			
11月 27日 (金)	09:15~ 11:30	スペシャル・セッション 「気象情報・知識の伝達・ 普及」 (10, A301~A310) -白石晶二-	降水システム II (13, B301~B313) -用貝敏郎-	スペシャル・セッション 「惑星大気の高多様性」 (10, C301~C310) -はしもとじゅーじー- -高木征弘-	大気境界層 (12, D301~D312) -小田僚子- -牛山朋来-
	11:30~ 12:30	ポスター・セッション (95, P301~P395)			
	13:30~ 17:00	スペシャル・セッション 「地球温暖化に伴う大気 海洋諸現象の変化を考 える-CMIP3マルチ気 候モデル比較解析研究 から-」 (16, A351~A366) -尾瀬智昭- -中村 尚-	スペシャル・セッション 「雷嵐 (Severe Storm) の 観測的研究」 (17, B351~B367) -鈴木 修- -河崎善一郎-	熱帯大気 (20, C351~C370) -村田文絵- -清木亜矢子-	観測手法 (20, D351~D370) -中島 孝- -久慈 誠-

発表件数 : 485件 (口頭発表296, ポスター189)

口頭発表の講演・質疑時間 : 7分と2分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenkikaku2009a@metsoc.jp) まで。

大会参加費・懇親会費

大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者A	8,000円	—
講演者B	5,000円	—
聴講者	3,000円	4,000円

- 講演者の種別：
講演者A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
講演者B：講演者Aに該当しない講演者
- 講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です。

懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000円	6,000円
学生	4,000円	4,500円

支払方法

- 講演者の参加費の支払い方法は前納のみとなっており、既に受付は締め切られています。
- 懇親会費及び聴講者の参加費を前納する場合は、大会ホームページにて2009年10月6日（火）までにお支払下さい（郵便振替の場合は2009年9月29日（火）まで）。それを過ぎた場合は当日払いとなります。

領収書

- 領収書は参加者本人の名義で、大会当日受付にて名札と一緒に手渡される予定です。
- 名義の変更が必要な場合には再発行が可能ですので、大会当日受付にてお申し出下さい。

その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・懇親会費には会員・非会員の区別はありません。
- 非会員の方も規定の参加費・懇親会費をお支払い頂ければ大会・懇親会に会員と同様に参加することができます。

講演の方法

口頭発表（スペシャル・セッションを含む）

- 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は9分（講演7分・質疑2分）です。
- スペシャル・セッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- 講演にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- 止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。また、場合によってはOHPによる発表

に切り替えさせて頂くこともあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備やOHPシートの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦240 cm × 横120 cm程度となっています。
- ポスターの掲示にあたって画鋏・ピン・テープ類が使用できません。これらは発表者自身で準備してください。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守をお願いします。
 - ✓ 第1日の発表者は11月25日13:00～18:00
 - ✓ 第3日の発表者は11月27日09:00～13:00
- ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

今大会では、保育施設の斡旋ならびに保育施設利用料の一部補助を行います。利用を希望される方は、10月23日（金）までに下記の担当者までご連絡ください。

連絡先： 中島 健介（九州大学）
TEL: 092-642-2682, E-mail: kensuke@geo.kyushu-u.ac.jp

シンポジウム「東アジアの大気環境」

日時：大会第2日（11月26日） 15:30～17:45
会場：アクロス福岡 国際会議場（大会A会場）
司会：竹村 俊彦（九州大学応用力学研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です

趣旨

日本では、高度経済成長の副作用として各地で公害が社会問題となり、現在も訴訟が継続中の事例もあります。しかし、様々な技術革新および施策により日本周辺の環境改善が図られ、一定の成果があげられました。一方、特にここ数年来、日本の大気環境の悪化が西日本を中心に顕著となっています。周囲に大規模な工場や幹線道路が無い離島でも大気が頻繁に霞んだり、夏季よりも春季に光化学スモッグが発生しやすかったりすることなどから、越境汚染による影響が強いと考えられています。

日本気象学会では、2003年度秋季大会において、「東アジア域における環境変化」と題したシンポジウムを開催し、国境を越えた問題への大気科学の対応について考えました。その後の大気環境の悪化は社会生活にも影響が及ぶようになり、多くの研究者が大気汚染の実態とその影響について解明すべく取り組んでいます。今回のシンポジウムでは、東アジア域の人為起源物質や黄砂による大気汚染について最新の知見を4名の講演者に提供して頂き、皆様に問題の現状を把握して頂くとともに、今後取り組むべき課題について踏み込んだ議論を行いたいと考えております。なお、このシンポジウムは一般の方々にも公開します。毎日の生活に直接的な影響のある大気汚染について、市民の皆様にもお考え頂ければと思います。

基調講演

- ・「東アジアにおけるオゾン・エアロゾル広域大気汚染」 秋元 肇（（財）日本環境衛生センター酸性雨研究センター）
- ・「東アジアにおけるダスト- 大気・気候系の解明」 三上正男（気象庁気象研究所物理気象研究部）
- ・「気候問題にかかわるエアロゾルの直接・間接のシグナルについて」 中島映至（東京大学気候システム研究センター）
- ・「黄砂と中国大都市粒子状物質の健康影響」 市瀬孝道（大分県立看護科学大学）

総合討論

スペシャル・セッションの概要紹介

国際極年（IPY）2007-2008の成果と将来展望

日時：大会第1日（11月25日）10:00～12:15, 13:15～17:00

場所：A会場

趣旨：国際極年（IPY）2007-2008は、2007年3月から2009年3月までの二カ年にわたって実施されてきた。今回のIPYは125年前のIPYから数えて4回目にあたり、南極観測が開始された50年前のIPY、即ち国際地球観測年（IGY）に比べると、日本では大きな事業が始められたわけでもなく、また国民的熱狂に迎えられたわけでもなかった。これは、極域の科学が既に成熟期を迎えており、定常的に様々な観測・研究が実施されているためであろうか。しかし、こういう中で、実質的には多くの、新しい、エキサイティングな観測が南極や北極で行われてきた。日本気象学会においても、是非この機会に、IPY 2007-2008のプロジェクトとして、また関連して行われてきた興味ある観測・研究の成果を報告・紹介いただき、さらにIPYのレガシー（遺産）として今後のあるべき極域大気科学を考えていきたい。

世話人：山内 恭（国立極地研究所）、中島英彰（国立環境研究所）

温室効果ガス観測技術衛星GOSAT「いぶき」の利用研究

日時：大会第1日（11月25日）09:30～12:15

場所：B会場

趣旨：2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星GOSATは「いぶき」と名付けられ、現在も順調に観測を続けている。GOSATは宇宙航空研究開発機構（JAXA）、環境省（MOE）、国立環境研究所（NIES）の共同プロジェクトであり、亜大陸規模での二酸化炭素の発生・吸収強度の推定誤差を半減させることを最大の目標としている。これまでに初期運用試験を終了し、二酸化炭素とメタンデータについて、まずは研究公募PIへの配布、続けて10月からは一般配布が始められている。本セッションの前半では、プロジェクト全体の進捗状況と短波長赤外（SWIR）バンドについての衛星打ち上げ後の基本性能やデータ解析結果について発表を行う。後半では、熱赤外バンド（TIR）と雲エアロゾルセンサー（CAI）についての性能評価と解析結果、および、校正、検証に関わる発表に加え、データ利用に関する解析速報について発表を行う。本セッションをGOSATデータの有効性と発展性を広く議論する機会としたい。

世話人：今須良一（東京大学気候システム研究センター）、井上 元（総合地球環境学研究所）、横田達也（国立環境研究所）、中澤高清（東北大学）、近藤 豊（東京大学先端科学技術研究センター）、中島映至（東京大学気候システム研究センター）

気象情報・知識の伝達・普及

日時：大会第3日（11月27日）09:15～11:30

場所：A会場

趣旨：折角の気象情報や知識も、伝わり、理解され、活用されなければ意味がありません。特に、防災関連情報は、適時性、理解容易性が重要なポイントになると考えられますが、それぞれ奥深いものがあり、配慮と工夫が必要です。また、受け手側の理解力、活用能力が問題になります。このセッションでは、気象情報の作成、伝達、関連知識の普及・訓練に携わる人々の、日ごろの研究成果が発表されることを期待しています。切り口としては、①情報作成時の配慮・工夫、②伝達に際しての配慮・工夫、③気象知識の普及及び気象情報等活用訓練の実施、といったところが挙げられますが、それぞれに様々な問題点があることでしょう。そうした問題点のありかや克服の仕方などについて発表をお願いし、その成果を共有することにより、今後の進展に繋げていきたいと考えています。

世話人：石原 洋（福岡管区気象台）、石井和子（日本気象予報士会）、弘中秀治（宇都市防災危機管理課）、岩田修（日本気象予報士会）、白石晶二（日本気象予報士会）

惑星大気の多様性

日時：大会第3日（11月27日）09:15～11:30

場所：C会場

趣旨：太陽系惑星の大気現象にみられる多様性は、地球と異なる大気組成、雲、大気放射、地形といった様々な条件を反映している。近年、火星や金星、木星などを対象に、力学過程を中心とした大気モデリングが進展をみせているが、こうした物理過程についての理解や取り扱いは十分とはいえない。系外惑星の発見は、惑星のおかれうる条件がこれまで考えられてきた以上に多様であることを示しており、惑星大気の力学的研究においても物理過程の重要性が増しつつある。本セッションでは、惑星大気に関する力学や放射、化学、進化、形成など、幅広い分野における理論的あるいは観測・実験的研究の現状を共有したい。

世話人：高木征弘（東京大学大学院理学系研究科）、はしもとじょーじ（岡山大学大学院自然科学研究科）

地球温暖化に伴う大気海洋諸現象の変化を考える —CMIP3マルチ気候モデル比較解析研究から—

日時：大会第3日（11月27日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：近年、地球温暖化は市民生活の中でも現実的に語られ

るようになり、気象・気候学に携わる者は、実際にどのような変化が身近に起きるのかという問いに対する具体的な答えを社会から要請される時代になった。私たちの生活を左右する日々の天候は、温帯低気圧や台風の強さや経路、熱波や寒波、豪雨や干ばつといった、短周期の気象・海象の現れ方により大きく影響される。温暖化時にいかなる変化が起きるかという問いに対しては、このような短周期の気象・海象の将来変化についての見通しが必要である。本スペシャル・セッションでは、IPCC第4次報告書のためWCRP第3次結合モデル相互比較プログラム（CMIP3）の下に集約されたマルチモデルによる20世紀再現実験および21世紀シナリオ実験の中の諸現象の比較解析を通じて、現象のメカニズムについての理解を深め、温暖化の影響でそれらが将来いかに変化・変調するかについての予測結果を解釈するための議論をしたい。

世話人：高藪 縁（東京大学気候システム研究センター）、木本昌秀（東京大学気候システム研究センター）、尾瀬智昭（気象研究所）、中村 尚（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学）

雷嵐（Severe Storm）の観測的研究

日時：大会第3日（11月27日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：昨年の夏、日本各地ではいわゆる「ゲリラ豪雨」といわれるような一時間あたり100ミリを越えるような降水を記録する事例が多数発生した。例えば、愛知県岡崎市では一時間に140ミリ、そして滋賀県甲賀市では同120ミリの降水を記録した。また神戸市では、急激な河川の増水で小学生が犠牲になるという痛ましい事故も起こっている。さらに福井県敦賀市では、突風によりイベント用テントが吹き飛ばされ、死者が出るという事故も起こっている。これらを引き起こす原因は、雷嵐（Severe Storm）と呼ばれる現象で、降雹、豪雨、落雷、突風、竜巻といろいろな形となって我々に害を及ぼすとされている。そして、地球温暖化に伴ってこのSevere Stormが、我が国においても今後更に増加していくであろうと予想される。そこで本スペシャル・セッションでは、このSevere Stormを取り上げ、観測的研究の立場からの予測可能性などについて広く議論をしたい。

世話人：河崎善一郎（大阪大学大学院工学研究科）、楠 研一（気象研究所）、道本光一郎（防衛大学校）、牛尾知雄（大阪大学大学院工学研究科）

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第32回メソ気象研究会・気象災害委員会との共催発表会

日時：2009年11月24日（火）（大会前日）13:30～17:45

場所：九州大学国際ホール（福岡市東区箱崎6-10-1）

テーマ：「平成21年7月中国・九州北部豪雨と今後の豪雨の監視・予測に向けて」

コンピーナー：石原正仁・加藤輝之（気象研）

内容：2008年夏期に引き続き、2009年梅雨末期にも集中豪雨

が発生し、平成21年7月中国・九州北部豪雨では死者30名・負傷者46名を出すなど大きな被害になりました。今回は、メソ気象研究会と気象学会の気象災害委員会が共催して、集中豪雨についての話題を取り上げます。特に、前半（気象災害委員会主体）では平成21年7月中国・九州北部豪雨の実況・災害の状況だけでなく、近年の豪雨とそれに伴う災害の発生傾向や豪雨の発生メカニズムについて一般の方に理解しやすいように講演をして頂きます。また、後半（メソ気象研究会主体）では梅雨末期にみられる典型的な集中

豪雨だけではなく、局地的な豪雨に対する実況監視技術や予測技術についての最新の情報や研究内容を発表していただきます。幅広い方面からの多くの方々のご参加と活発な議論をお願いします。

プログラム：

- 13:30-13:35 趣旨説明
- 13:35-14:05 平成21年7月中国・九州北部豪雨の予報と実況
松本 積 (福岡管区気象台)
- 14:05-14:35 中国・九州北部における近年の豪雨・大雨と災害
早川誠而 (緑と花と彫刻の博物館)
- 14:35-14:55 近年の豪雨、大雨の発生傾向
藤部文昭 (気象研)
- 14:55-15:35 集中豪雨の発生メカニズム
加藤輝之 (気象研)
- 休憩
- 15:50-16:00 豪雨の監視・予測の着目点について
加藤輝之 (気象研)
- 16:00-16:30 集中豪雨における新たな実況監視情報について—Xバンドマルチパラメータレーダネットワーク—
真木雅之 (防災科研)
- 16:30-16:55 雲解像4D-VARを用いた局地豪雨の同化・予報実験
川畑拓矢 (気象研)
- 16:55-16:20 全球SVメソアンサンブル予報による豪雨予測の可能性—平成21年7月中国・九州北部豪雨—
原 昌弘 (気象研)
- 17:20-17:35 総合討論
- メソ研究会世話人：坪木和久 (名大地球水循環)，加藤輝之 (気象研)，小倉義光 (東大海洋研)
- 連絡先：加藤輝之 (気象研)
E-mail：tkato@mri-jma.go.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2009年11月25日 (水) (大会第一日) 18:15~2時間程度
場所：アクロス福岡 国際会議場 (大会A会場)

話題：夏季北極圏の低気圧活動の特徴

- 「北極の大気循環のレビューと今年の北極海の状況」
堀 正岳 (海洋研究開発機構 地球環境変動領域)
- 「夏季北極圏のストームトラックについて」
西井 和晃 (東京大学大学院 理学系研究科)
- 「北極低気圧のライフサイクルについて」
高橋 真司 (筑波大学大学院 生命環境科学研究科)
田中 博 (筑波大学 計算科学研究センター)

内容：今回の極域・寒冷域研究連絡会では、夏季北極圏の低気圧活動の特徴についての講演会を行います。2008年春季の研究連絡会では、「北極圏で今何が起きているのか」に注目しましたが、今回は、それらの現象に関連して、北極圏の大規模大気循環の特徴を取り上げます。この数年の北極圏の急激な変化を考える上で、夏季北極圏の大気循環、とりわけ夏季の低気圧が果たす役割に注目する必要があるように思われます。例えば、北極海シベリア沿岸を中心とする夏季の低気圧活動が変調する事によって、陸域での降水増加・北極海上の風系変化に伴う海氷減少などが指

摘されています。一方、この低気圧は海氷の融解に影響を与えるポーフォート海上の高気圧と双極子状に発達・維持することがあり、その因果関係など未解明の部分もあります。このように夏季北極圏の低気圧活動は、北極圏の気候システムに大きな影響を与える可能性があるため、その発達や維持機構の解明は北極圏の将来予測に対しても重要な意味を持つでしょう。そこで今回は、3件の講演をお願いします。まず、北極の大気循環のレビューをして頂いた後、夏季北極圏のストームトラック活動について、及び北極域における低気圧のライフサイクルについて、最新の研究を紹介して頂く予定です。今回の研究会が、夏季北極圏の大気循環の特徴についての議論を深める場を提供できればと考えています。

代表：山崎孝治 (北大院地球環境)

世話人：平沢尚彦 (極地研)，中村 尚 (東大院理)，浮田甚郎 (新潟大自然科学)，高田久美子 (FRCGC)，阿部彩子 (東大気候システム)，佐藤 薫 (東大院理)，本田明治 (新潟大自然科学)，齋藤冬樹・高谷康太郎・堀 正岳・猪上 淳 (JAMSTEC)

URL: http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

問い合わせ先：猪上 淳 (JAMSTEC)

TEL: 046-867-9483 FAX: 046-867-9455

E-mail: jun.inoue@jamstec.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2009年11月25日 (水) (大会第一日) 18:15~20:15

場所：アクロス福岡 大会議室 (大会B会場)

内容：トロントで6月1-5日に開催された CCMVal workshop に参加された以下の2名の方より、会議の報告とそれに関連した研究の紹介を行っていただきます。CCMValは成層圏化学気候モデルの相互比較プロジェクトであり、世界中から多くの研究機関が参加してモデルの総合的な検証を進めています。プロジェクト報告書の刊行を来年に控え、様々な角度からのモデル間比較結果が出てきており、それを元に今後のモデル研究の方向性などに関しても議論が始まっています。今回はお二人の参加者から、それぞれの立場で話題になっていたテーマや興味深い内容を取り上げていただきます。ご関心をお持ちの方はぜひご参加ください。

- ・柴田清孝 (気象研究所)
- ・中村 哲 (国立環境研究所)

※なお、9月に打ち上げられたSMILESに関する速報的な話題提供も予定しています。

世話人：笠井康子 (NICT)，川上修司 (JAXA)，河本 望 (RESTEC)，永島達也 (環境研)，高島久洋 (JAMSTEC)，村田 功 (東北大院環境科学)

連絡先：村田 功 (東北大院環境科学)

TEL: 022-795-5776, FAX: 022-795-5775

E-mail: murata@pat.gp.tohoku.ac.jp

第7回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2009年11月25日（水）（大会第一日）18:15～20:15

場所：アクロス福岡 会議室607（大会D会場）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。

- 陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換
- 陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明
- 直接観測、間接観測、およびモデリングの融合
- 空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決
- 正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発
- それらのための研究協力関係の構築

今回は、2013年度に打ち上げ予定の、第1期気候変動観測衛星（GCOM-C1）を全体テーマとして、4名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者および講演題目：

村上 浩（宇宙航空研究開発機構）「GCOM-C1ミッションについて」

本多嘉明（千葉大学）「GCOM-C1 の目指すもの（陸域）」

堀 雅裕（宇宙航空研究開発機構）「GCOM-C1/SGLIの観測からわかる雪氷変動～積雪の面的+質的情報の抽出～」

村岡裕由（岐阜大学）「森林生態系炭素循環の統合的研究から衛星生態学による研究コミュニティの連携へ」

世話人：馬淵和雄（気象研），大谷義一（森林総研），奈佐原顕郎（筑波大），伊藤昭彦（環境研），佐藤 永（FRCG C），大石龍太（東大気候システム）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8722，FAX：029-853-8728，

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp

2010年度春季大会の予告

2010年度春季大会は、2010年5月23日（日）～26日（水）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木）で開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは2010年2月頃となる予定です。